

# IRONKEY™ D300M

## セキュアな USB 3.0 フラッシュドライブ

### ユーザーガイド



## 本書について

このユーザーガイド（以降は、「本書」と略します）は、FIPS 認証済みの IronKey D300M について、カスタマイズを行っていない製造時の状態を基にして説明しています。本書で用いる事例は、IronKey™ EMS のデフォルト・ポリシーを基にして説明しています。

## システム要件\*

### PC プラットフォーム

- Pentium III プロセッサ (またはそれ以上)
- 15MB のディスク空き容量
- USB 2.0/3.0 ポート対応
- 最後の物理ドライブの後の、2 つの連続したドライブ・レター。「ドライブ・レターの競合」(15 ページ) を参照してください。

### 対応オペレーティングシステム (OS)

- Windows® 10
- Windows® 8, 8.1 (RT を除く)
- Windows® 7 SP1
- Windows® Vista SP2

### Mac プラットフォーム

- 15MB のディスク空き容量
- USB 2.0/3.0

### 対応オペレーティングシステム (OS)

- Mac OS X 10.9.x ~ 10.12.x

**\* 注：IronKey D300M は強制管理のセキュアな USB ドライブで、各デバイスの管理や個別販売には IronKey™ EMS が必要です。**

## 推奨事項

D300M デバイスに十分な電力を供給するために、以下の図 1.1 に示すように、ノートパソコンまたはデスクトップパソコン本体の USB ポートに直接、差し込んでください。図 1.2 で示すように、キーボードや USB から給電するハブなどの USB ポートを持つ周辺機器に D300M を接続しないでください。



図 1.1 – 正しい使い方

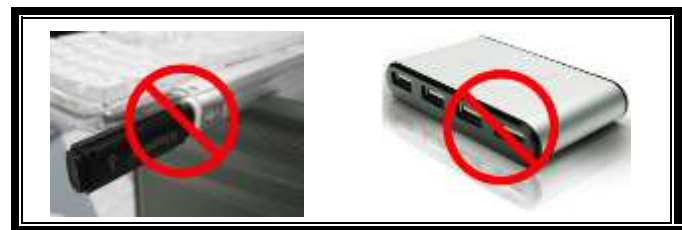


図 1.2 – 間違った使い方

## デバイスの設定 (Windows OS の場合)

1. D300M を、ノートパソコンまたはデスクトップパソコンの空いている USB ポートに差し込み、Windows がこのドライブを検出するまで待ちます。

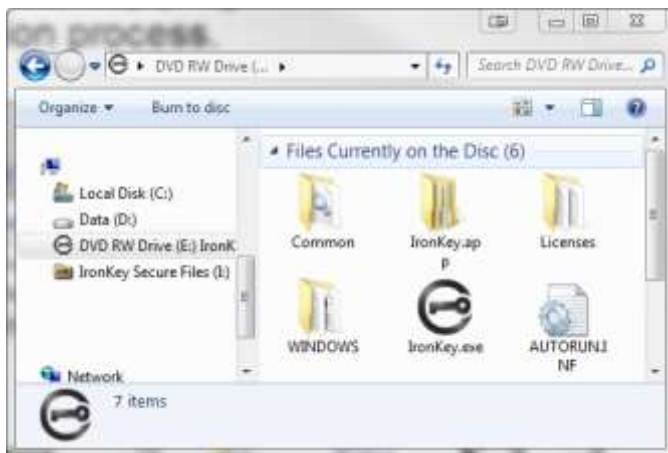
- Windows のユーザーに対しては、**図 2.1** に示すように、デバイスドライバーの通知メッセージが表示されます。

新しいハードウェアの検出が終わると、Windows はユーザーに対して初期化プロセスの開始を要求します。

- Windows ユーザーの場合は、**図 2.2** のような AutoPlay ウィンドウが表示されます。

2. "Run IronKey.exe" のオプションを選択します。

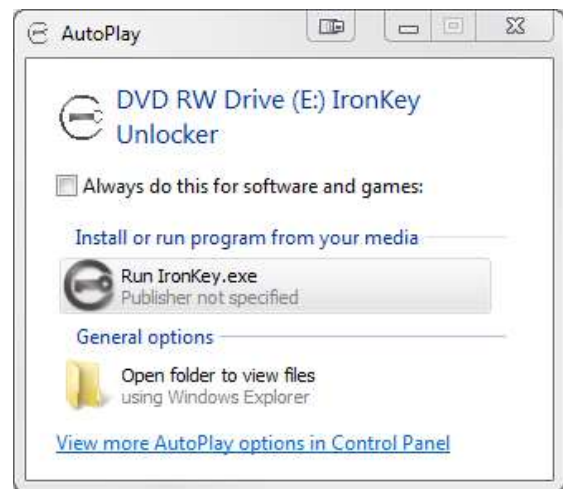
Windows が AutoPlay を実行しない場合は、CD-ROM のパーティションを閲覧し (**図 2.3**)、マニュアル操作で IronKey プログラムを実行してください。この操作でも、初期化プロセスが開始されます。



**図 2.3 – D300M の内容**



**図 2.1 – 「新しいハードウェアが見つかりました」**



**図 2.2 – AutoPlay ウィンドウ**

(注:AutoPlay ウィンドウのメニュー項目は、ユーザーのパソコンにインストールされているプログラムによって異なります。AutoRun は初期化プロセスを自動的に開始します。)

## デバイスの設定 (Mac OS の場合)

D300M を、ノートパソコンまたはデスクトップパソコンの空きの USB ポートに差し込み、Mac OS がこのドライブを検出するまで待ちます。検出が終わると、**図 3.1** に示すように、IRONKEY ボリュームがデスクトップに表示されます。

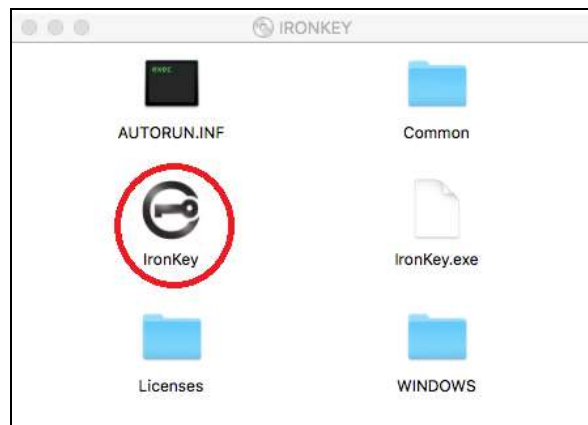


**図 3.1 – IRONKEY**

1. [IRONKEY CD-ROM] のアイコンをダブルクリックします。
2. **図 3.2** に示すウィンドウ内で、"IronKey.app" フォルダを探してください。
3. **図 3.3** に示すウィンドウ内で、"IronKey.app" のアプリケーションアイコンをダブルクリックします。これで初期化プロセスが開始します。



**図 3.2 – D300M の内容**



**図 3.3 – D300M のアプリケーション**

**Windows OS と Mac OS のいずれの場合も、次ページの初期化プロセスを続けてください。**

## デバイスの初期化\アクティブ化

1. アクチベーションコードをキー入力するか、貼り付けます。EMS の管理者からの E メールで、アクチベーションコードが送られて来ていますので、[次へ] をクリックします (図 4.1)。



図 4.1- アクチベーションコード

2. ドロップダウンメニューで、デフォルト設定の言語を選択します。デフォルト設定の場合、IronKey ソフトウェアは、ユーザーパソコンの OS と同じ言語を使用します。次のステップに進みます。(図 4.2)



図 4.2 - 言語の選択

3. 使用許諾契約の内容に目を通し、[アクティブ化]をクリックします。(図 4.3)

(注：次のステップに進む前に、使用許諾契約に同意する必要があります。同意しないと、[アクティブ化]のボタンは有効になりません。)



図 4.3 – 使用許諾契約

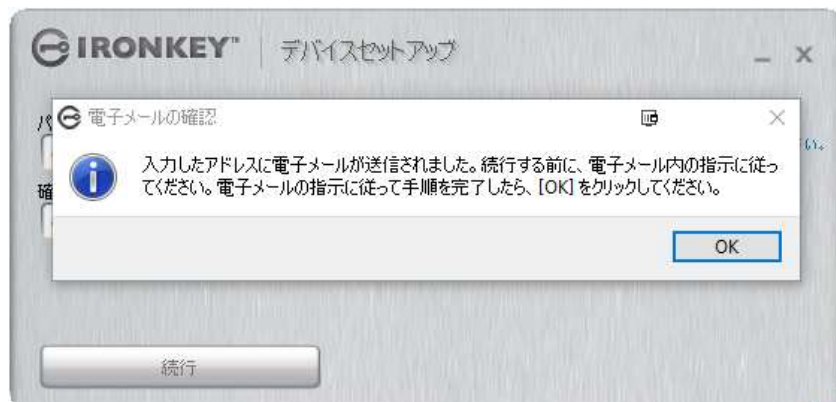
4. DT300M に保存するユーザーデータを保護するために、パスワードを決めます。そのパスワードを [パスワード] フィールドにキー入力します。確認のために、同じパスワードを [パスワードの確認] フィールドに再入力します (図 4.4 を参照)。パスワードは大文字と小文字が区別されるため、管理者が設定したパスワードポリシーに従う必要があります。パスワードは、(スペースを含み) 8 文字以上の長さでなければなりません。[続く]をクリックして、次のステップに進みます。



図 4.4 – パスワードの設定



5. ユーザーが E メールをチェックするように求められます。これは、IronKey™ EMS 上でユーザーアカウントを管理者が作成した時に使用した E メールです。ユーザーの E メールに進む前に、以下の手順に従ってください。Eメールの指示を行った後、[OK] をクリックします。図 4.5



ステップ 4.5 - Eメールの確認

以上でデバイスの初期化/アクティブ化のプロセスは完了しました。

## ユーザーデバイスの使い方

D300M を初期化した後、ユーザーはセキュリティで保護されたデータパーティションにアクセスし、パスワードを使ってデバイスにログインして、デバイスの各種オプションを利用できます。これを行うには、以下の手順に従ってください。



図 5.1 – ログイン画面

1. D300M をノートブックかデスクトップの空いている USB ポートに挿入します。
  - Windows OS の場合： "Ironkey.exe" ファイルを実行します (3 ページの図 2.3)。
  - Mac OS の場合： "IronKey App" ファイルを実行します (4 ページの図 3.3)。
2. (6 ページの図 4.4 で作成した) パスワードを入力します。 **Figure 5.1**



図 5.2 – パスワードが間違っている場合

- パスワードを入力し、[Unlock] ボタンをクリックして続行します。
- 正しいパスワードが入力されると、D300M はロックを解除し、ユーザーはこのデバイスを使用できるようになります。
- 間違ったパスワードが入力された場合は、「パスワードが正しくありません。もう一度やり直してください。」というエラーメッセージが表示されます。 **図 5.2**

(注:ログインプロセスの実行中に、間違ったパスワードを入力した場合、ユーザーは正しいパスワードの再入力ができます。しかし、不正アクセス回数を記録するセキュリティ機能が内蔵されています。\*あらかじめ設定済の 10 回の不正アクセス回数に達した場合、D300M はロックされ、次に使用する前にセキュリティで保護されたデータパーティションの初期化が必要になります。この機能の詳細は、「デバイスのリセット」(12 ページ)をご覧ください。

3. セキュリティで保護されたデータのパーティションは読み取り専用モードでのみロックを解除できますが、デバイスにログインする前に「読み取り専用モード」のチェックボックスにチェックを入れている場合は、「書き込み保護モード」でもロックを解除できます。読み取り専用モードで認証を受けた場合は、D300M の内容を開いたり、閲覧することが可能ですが、このモードで内容を更新、変更、および消去することはできません。(注：また読み取り専用モードでは、フォーマット・オプションを使うことができず、**[セキュアボリュームの再フォーマット]**はグレー表示されます。

すでに読み取り専用モードでログインし、デバイスのこのモードを解除して、セキュリティで保護されたデータのパーティションに対して完全に読み書きのアクセスができるようにするには、一度 D300M を停止し (次ページの図 6.1 の #4 を参照)、その後再びログインしますが、認証時に「読み取り専用モード」のチェックボックスのチェックを外したままにしてください。

\* デバイスの認証が正常に行われた場合、ログイン失敗カウンターの値はリセットされます。



## デバイスコントロールパネル（機能）

## コントロールパネル（アプリケーション） 図 6.1

1. アプリケーション - コントロールパネルのアプリケーションリスト（現在の表示内容）を開きます
2. ファイル - Windows Explorer (PC) または Finder (Mac) を開き、D300M のセキュアパーティションを表示します
3. 設定 - コントロールパネルの設定を開きます
4. ロック - D300M のセキュアパーティションをロックします
5. 容量メーター - セキュアパーティションの利用可能なディスクスペースを表示します

## D300M のコントロールパネル



図 6.1

## コントロールパネル（設定）

1. ツール - コントロールパネルのツールオプションを開きます（**図 6.2**）
  - 更新情報を確認します（デフォルト設定の場合 = 更新情報を自動的に確認します）
  - セキュアボリュームを再フォーマットします\*

\* 警告：セキュアボリュームのすべてのデータが消去されます。再フォーマットを行う前に、データをバックアップしてください。



図 6.2 コントロールパネル - 設定 - ツール

2. パスワード - コントロールパネルのパスワードオプションを開きます（**図 6.3**）
  - パスワードを忘れた場合...(デフォルト設定の場合 = パスワードの再設定が有効になります)
  - パスワードの変更（IronKey の EMS 管理者が設定したパスワードポリシーによって異なります）



図 6.3 コントロールパネル - 設定 - パスワード

3. ユーザー設定 (Preferences) - コントロールパネルの「ユーザー設定」オプションを開きます (図 6.4)

- D300M で使用する言語を変更します (デフォルト設定の場合 = パソコンの OS と同じ言語を使います)
- 「メッセージのロック解除」は、D300M のロック解除画面で使用したり、変更できます (デフォルト設定の場合 = 使用/変更できません)



図 6.4 コントロールパネル - 設定 - ユーザー設定

4. デバイス情報 - コントロールパネルの「デバイス情報」オプションを開きます(図 6.5)

- 「コピー」を選択すると、「このデバイスについて」のデータがクリップボードにコピーされ、Eメールやテキストエディタに貼り付けることができます。
- 「Web サイトにアクセス」を選択すると、ブラウザで Kingston の「セキュア USB」のホームページにアクセスできます
- 「法的通知」を選択すると、ブラウザで「D300M のソフトウェア使用許諾契約書」の Web サイトにアクセスできます。
- 「証明書」を選択すると、ブラウザで「D300M の証明書」の Web サイトにアクセスできます。



(図 6.5) コントロールパネル - 設定 - デバイス情報

## ヘルプとトラブルシューティング

### デバイスのリセット

D300M には、連続した不正アクセス回数 (MaxNoA) に達した場合に、不正アクセスを防止するセキュリティ機能が内蔵されています。規定のアクセス回数は、10 回にデフォルト設定されています。(注:デフォルト設定のポリシーによって異なります)

「ロックアウト」カウンタは、不正アクセス回数を記録しており、この値は以下の 2 つの方法のいずれかでリセットされます。1) MaxNoA の回数に達する前に、正常にログインした場合、または 2) MaxNoA の回数に達した場合、デバイスの初期化を行います。\* (注: 2 番目の方法では、すべてのデータが消去されます)

間違ったパスワードが入力された場合は、エラーメッセージが表示されます。図 7.1 を参照。



図 7.1 – ログインに失敗した場合

ログインが続けて 2 回失敗した場合、あと 8 回で MaxNoA の回数 (これは 10 回にデフォルト設定されています) に達することを示す追加のエラーメッセージが表示されます。また「デバイスのリセット」オプションも表示されます。図 7.2 を参照。

この時点で、(1) ドライブを無効な状態にしたい場合、または (2) パスワードを忘れた場合は、「デバイスのリセット」を選ぶことができます。\*

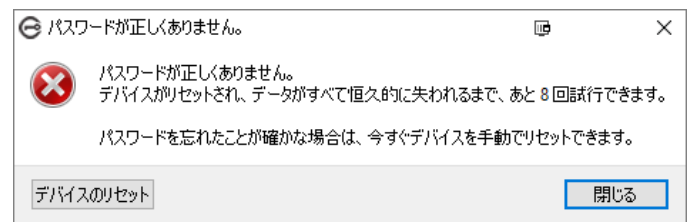


図 7.2 – パスワードが 2 回間違った場合

あらかじめ設定済の 10 回の不正アクセス回数に達した場合、D300M はデータパーティションを恒久的にロックし、次に使用する前に、デバイスの初期化が必要になります。これは、D300M に保存されているデータがすべて消去されることを意味しており、またユーザーは EMS の管理者から新しいアクチベーションコードを受け取り、D300M を再びアクティブ化する必要があります。

このセキュリティ対策は、(パスワードを持っていない) 第三者によるログインの試みや重要なデータへのアクセスを制限するものです。

**\*注:デバイスのリセットにより、D300M のセキュリティで保護されたデータパーティションに保存されている情報はすべて消去されます。**

## パスワードヘルプの使い方

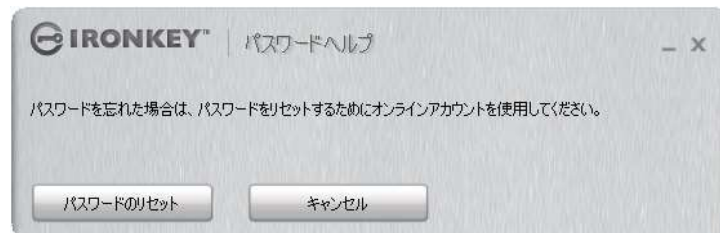
パスワードをリセットする場合：

1. D300M を挿入し、"IronKey.exe" (Windows OS の場合) または "Ironkey.app" (Mac OS の場合) を実行します。
2. [パスワード・ヘルプ] をクリックします。 **図 8.1**



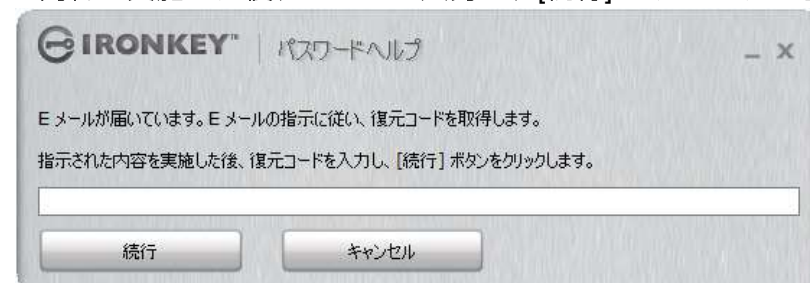
**図 8.1**

3. 「パスワード・ヘルプ」のプロンプトが表示されたら、[パスワードのリセット] をクリックします。 **図 8.2**



**図 8.2**

4. E メールメッセージの内容を実施した後、コードを入力し、[続行] をクリックします。 **図 8.3**



**図 8.3**

5. 新しいパスワードを両方のフィールドに入力し、[パスワードの変更] をクリックします。(図 8.4) 以上で、パスワードの変更プロセスが終了します。



The screenshot shows a web interface for changing a password. At the top left is the IRONKEY logo and the text 'パスワード変更'. Below this are two input fields: '新しいパスワード' (New Password) and '確認' (Confirm). To the right of the input fields is a blue text instruction: '新しいパスワードの作成にあたり念のため注意があります。' followed by a plus sign and '各 1文字 (スペース含む)'. At the bottom of the form is a button labeled 'パスワードの変更'.

図 8.4



## ドライブ・レターの競合 (Windows OS の場合)

本書の「システム要件」(2 ページ) で説明したように、D300M は、ドライブ文字の割り当ての「ギャップ」の直前の最後の物理ディスクに続く、2つの連続したドライブ文字を必要とします (図 9.1 を参照)。ユーザープロファイルに特有のものであり、ハードウェアプロファイルそのものとは関係がないため、これはネットワーク共有とは関連しません。従って、OS からは利用可能に見えます。

つまり、Windows はネットワーク共有や Universal Naming Convention (UNC) パスですでに使用されているドライブ文字を D300M に割り当てることがあり、ドライブ文字の競合が発生します。競合が発生した場合、管理者またはヘルプデスク部門にお問い合わせいただき、Windows の [ディスクの管理] でドライブ文字の変更方法をお尋ね下さい (変更には管理者権限が必要です)。



図9.1 – マイ・コンピュータ

この例では、D300M はドライブ F: の後の最初の利用可能なドライブ文字である E: を使用しています (E: がドライブ文字のギャップ前の最後の物理ディスクです)。ドライブ文字 G: は、ネットワーク共有であり、ハードウェアプロファイルの一部ではないため、D300M が 2 番目のドライブ文字として G: を使用し、競合が発生する可能性があります。

システムにネットワーク共有がないのに D300M が読み込まれない場合、カードリーダーやリムーバブルディスク、その他以前にインストールされているデバイスがドライブ文字の割り当てをもち続けており、結果競合が発生しています。

Drive Letter Management (DLM) は、Windows Vista、7、8/8.1 および 10 では大幅に改善しているので、この問題が発生しないかもしれません。しかし競合を解消できない場合は、Kingston の技術サポート部門まで詳細をお問い合わせください。

## エラーメッセージ

ファイルを作成できません – このエラーメッセージは、読取り専用モードでログインし、セキュリティで保護されたデータのパーティション上でファイルまたはフォルダの**作成**をしようとした時に表示されます。

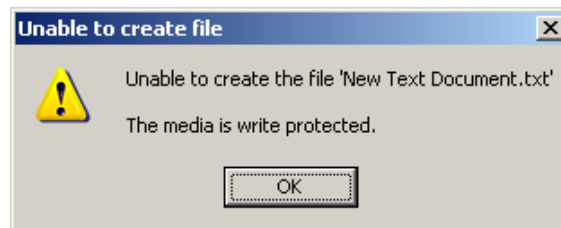


図 11.1 – ファイル作成不可のエラー

ファイルまたはフォルダのコピーの失敗 – このエラーメッセージは、読取り専用モードでログインして、セキュリティで保護されたデータのパーティションに対してファイルまたはフォルダを**コピー**しようとした時に表示されます。

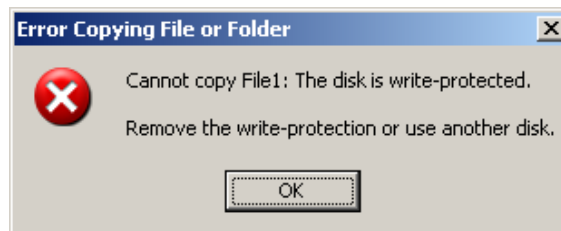


図 11.2 – ファイル/フォルダのコピーの失敗のエラーメッセージ

ファイルまたはフォルダの削除の失敗 – このエラーメッセージは、読取り専用モードでログインして、セキュリティで保護されたデータのパーティションからファイルまたはフォルダを**削除**しようとした時に表示されます。

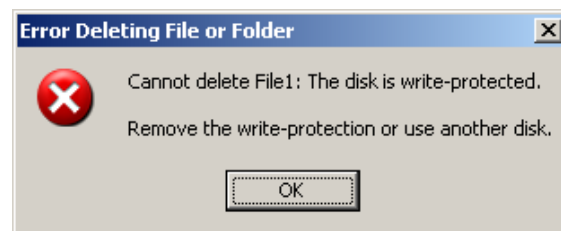


図 11.3 – ファイル/フォルダ削除の失敗のエラーメッセージ

すでに読取り専用モードでログインし、デバイスのこのモードを解除して、セキュリティで保護されたデータのパーティションに対して完全に読み書きのアクセスができるようにするには、D300Mを「ロック」し、ログインし直す必要があり、ログインの前に「読取り専用モード」のチェックボックスのチェックを外してください。